



この会報は、メール会員の皆様にも印刷物で郵送します。「インターネットではうまく開くことができない。」という会員からの問い合わせが届いているからです。どの会員でも開けるようにという努力は今後も続けますが、うまくいかないときはご連絡下さい。

なお、メール会員にはホームページやメール等による情報面で提供がありますので、是非、上記のホームページをご覧ください。

今後も、内容によっては、年間1～2回程度は、メール会員にも郵送で会報をお送りする事にします。

## 本号の内容

巻頭言 ; 宮崎 稔会長 (会報の1ページ目に、会長か副会長の巻頭言を載せます)

- 1 東北(岩手)フォーラムの概要まとまる
- 2 実践資料集の集積
- 3 「融合研年報2004」の発行
- 4 2005年度以降のフォーラム開催地立候補を受け付けます

巻頭言 宮崎 稔(融合研会長・習志野市立大久保東小学校長)

## 上品・下品

このごろ、人のいろいろな行動や言動を、上品と下品の二極から見ることにこだわっています。そして、自分の行いを振り返るようにしています。(ちょっと、いやらしいかな?)。これで、ほとんどのことが判断できるということに気が付きました。下品な行いには、「失礼な!」とか「ああいう言い方はしたくないなあ。」とかいうものがあります。一方、上品な行いには、モラルとか配慮とかステキ等に言い換えることができそうなものがあります。また、人間が成長していくプロセスとして、「まだまだ子どもだなあ。」という言動と、「やっぱり大人だなあ。」というように分類できるようなこともあります。

自分の欲望や権利・こだわりを前面に出したようなことは見苦しいですが、周りの人への配慮が行き届いた言動は、集団の潤滑油になります。

岸副会長さんが、二冊目の本『「地域暮らし」宣言～学校はコミュニティ・アート』(太郎次郎社)を出版されました。(おめでとうございます)。

そこには、秋津に住む大人の言動の底辺に流れている理念というかモラルというか、そういったものが克明に書かれております。前冊が具体的事例中心だったのに対して、今度の本は、実践から生まれた融合の理念や配慮事項等がさらにぎっしり詰まっております、どこでも使えるのでより教科書的な感じがします。

私が、岸さんたち秋津の人と学社融合を進めることができたのは、秋津の人の上品な言動が基本にあったからだろうと思っています。秋津の人は、自立しているからでしょうか、主体的であり上品でした。「まちは、どうあったらいいのだろうか。」「大人は、教師に対してどうふるまったらよいのだろうか。」「地域の大人同士はどんな配慮し合ったら、より融合が推進できるだろうか。」ということ、体に染みついた大人らしさで示してくれました。岸さんの本にもそのあたりの配慮がに記載されています。

(139ページ)「(前略) だから、そういうことは地域の役目だろうと思います。先生には本来の仕事である授業の質と技術を高めるための時間を確保してもらいたいと思うのです。・・・」

(205ページ)「学校にひっきりなしに入り込むおとなは、相当な数です。彼らは、自分たちのことを『ノー天気なお調子者の集まり』と言ってはばかりません。(中略)「気づかいをしなくていいんですよ。」という配慮が、自分たちをこう呼ぶことの真意なのです。

などがその一例です。上品でしょ！ カッコイイでしょ！

今、「学校を開いたら、地域が要求団体ようになって、無神経に何でも言うてくるので困るよ。」というような声も聞かれます。そのため学校は、再び守りに入るか、最低限の学校開放でお茶を濁そうとしているところも少なくないと聞きます。某市の学校評議員制度は、形骸化していて本来の役割を果たしていないということも耳にします。「学校は、そのような声に惑わされずに理想とするところへ主体的に突き進めばいいじゃないか、全く先生っていうのは子どもだなあ。」とも言うこともできますが、言うは易し・・・です。大人であることがかえって邪魔をしているからです。

「それも大人なのだ」と割り切り、端緒についたばかりの学社融合には、先生の(小さな)プライドを傷つけないようにして、実をとるという「より大人的な」配慮も必要なのではないでしょうか。張り合うときを間違えて、学社融合の土俵に上ってくれないようになってしまっただけでは元も子も無くなってしまいます。10年前の秋津のおとなのように、上品で格好良い言動になるように、地域の仲間にも広めていただきたいと思います。学社融合がうまくいくかどうかは、案外こんなところに秘訣があるのかもしれない。

## 1 東北(岩手)フォーラムの概要まとまる

2004年度の東北フォーラムの概要がまとまりました。とっても魅力的です。日程的には、これまでのフォーラムの反省点を生かして、参加し易い時期を設定しました。どうぞ、たくさんの方がご参加できるようご検討ください。

### 【賢治と啄木青春のまち・融合フォーラム2004 in盛岡】

岩手は、宮沢賢治や石川啄木が青春を過した町、盛岡で、8月21日午後から22日昼までの開催としたい。会場は、JR盛岡駅から町並みを楽しみながら徒歩30分、バスで10分、街を流れる中津川のほとりの「プラザおでって」(歴史的建造物が散在する地域にあります)。

大阪フォーラムで融合の方向は、「ひとり一人を大切にしたいノーマライゼーション社会」と確認いたしました。それを受けて、今年は、「市民の自立を目指した生涯学習社会の創造と市民との協働」をメインテーマにしていきたいと考えます。

- 1 日時 2004年8月21日(土)12:30~22日(日)12:00
- 2 場所 岩手県盛岡市「プラザおでって」
- 3 時程の概略 詳細は、次号でお知らせします。  
8月21日(土)  
12:00~ 受付

12:30～13:30 融合研総会  
13:30～13:45 開会行事（会長挨拶・実行委員長挨拶「盛岡からの発信」）  
13:45～15:15 基調講演  
講師；まちづくりコーディネータ「えにしや」主宰 清水義晴さん  
演題；「市民の自立を目指した生涯学習社会の創造と市民との協働」  
15:15～17:00 分科会  
17:00～18:00 屋台フォーラム  
18:00～20:00 夕食・懇親会・セリ市

8月22日（日）

9:00～9:30 分科会報告  
9:30～10:00 子どもの提言  
10:00～12:00 パネルディスカッション  
13:00～ オプションで「賢治ツアー」

パネラー（予定）

- ・ 清水 義晴（えにしや代表）
  - ・ 加藤 哲夫（みやぎNPOサポートセンター）
  - ・ 役重 眞喜子（東和町教育委員会次長）
  - ・ 石川 悌司（盛岡市教育委員会教育長）
- コーディネータ；野澤令照（融合研東北支部長）

分科会（案） 詳細は次号で！

親父の権利回復（楽しくって育児なしの父親でいられない？）  
家庭教育の話題に登場する母親達、しかし、家庭は母だけのものではない。全国のおやじネットワークの動きや仙台の事例、初富小の事例etc

子どもの読書

様々なきっかけが子どもを自立させ、行動させる。ひとつの出来事を紹介した「ハンナのかばん」。そして本からまた全国に広がる子ども達の輪。この本の主人公石岡史子さんとホロコーストをめぐるお話をメインに、子どもと読書に関わる大人のあり方を考える。

情報は融合の味方

大阪フォーラムで速報の便利さを体験しました。（中村さん、ありがとうございます）  
学校を公開するHP、情報の相互交流ができるメール以外にまだまだたくさん利用できるIT、仙台のシニアネットや玉沢小など、もっと、もっと考えたい。

はじめての学社融合

地元にとっての入門分科会、岩手で進めている教育振興運動を融合視点で検証し、新しい形との融合を目指す。大会ではおなじみの市川組が分科会デビューします。

企業とのコラボレーション

子どもの創造性と市民性の育成を目指す起業家教育や社会貢献を考える。経済産業局の支援を受けて実施している柳生小などの事例や社会に生きる実践の紹介。

子どもの自尊と可能性を広げる

不登校の適応指導センターの取り組みをもとに、フリースクールやコミュニティスクールのあり方を考える。また、子どもの自尊や先生の自信につながる取り組みの事例紹介をしていきたいと思えます。

分科会は発表者とフロワー会員で討論しながら進めていく方法をとることで考えています。なるべ

く小さい事例を活かしながら流れの目的をしっかりとコーディネートしていく。  
内容はできれば、4～5分科会にしたい。新しい提案も受付ます。

また、今回のフォーラムは、当日に意見のやりとりをするだけでなく、フォーラムまでのプロセスで勉強し合って迎えようという考えから、すでにメール（融合研のメーリングリスト）を使って、事例発表予定者と会員との意見交換を始めています。当日参加できない人も、感想でも質問でも結構ですので、メールの討議に参加してみたらいかがでしょうか。

## 2 実践資料集の発行

12月28日の事務局会議で、「それぞれの会員が様々な実践をして、資料としても相当数に上るが、きちんと集積されて会員の元に届けられていない。そこで、きちんと集積し、年報のような形で一年に一度は、会員の元に届けられるようにしたい。」ということが議題になりました。

一方、その直後に、会員である日本体育大学の森川貞雄さん、伊藤恵造さんから、「大学の研究的事業の一環として、学社融合に関する資料の累積をしたいが、融合研として協力してもらえないか。」との打診がありました。

そこで、1月12日に、プログラム開発委員長の「越田さん」をチーフにして、資料集積に関する話し合いをしました。（出席者；越田、宮崎稔、岸、車、森川、伊藤）

以下が、その概要です。会員の皆さんには、よりよい資料集となるよう今後もいろいろとご協力を願うことになると思いますので、よろしくお願いします。

### 、実践資料集第1号について

- 1, 融合研と日本体育大学（以下、大学という）が協働して、実践資料集の発行を行う。
- 2, 当面の第1号は、これまで融合研事務局に届いている資料をもとに、選択し編集する。（担当責任；プログラム開発委員長「越田」）
- 3, 会員の実践でなくても、フォーラムに参加して発表したものは、資料集に選択する対象とする。
- 4, 資料は、特に手直し等をせず、できるだけ生のままで編集する。
- 5, 編集に関わる作業は、東京近郊の会員と大学の学生で行う。
- 6, 発行に関わる費用の内、消耗品と郵送費等は、大学が受け持つ。

編集作業を行う会員としては、東京近郊の少数の会員に呼びかける。

作業日は、3月6日（土）～7日（日）；宮崎雅子事務局長宅（宿泊して行う）

### 、第2号以降の発行について

大学は、予算の許す限り、継続的に支援したいということです。

- 1, 会報で広く会員に呼びかける。第1号に準じた発行とする。（資料送付の窓口は、岸副会長の会社；パンゲア プログラム開発委員長「越田」）
- 2, 編集委員（プログラム開発委員）を、会員から公募する。
- 3, 「編集作業～発行」は、第1号に準じる。
- 4, 編集委員は、資料集にコメントを付けるため、また分類するための勉強会を行う。編集委員でなくても、また都合のよい時だけでも参加することができる。
- 5, 会員が利用し易くするために、編集委員は、資料集とは別にデータベース集（類型化されたもの）を発行する。

### 3 年報「学社融合（仮題）」2004年の発行について

- 1 資料集とは別に、研究会活動の集積として、フォーラムの開催と時期が合うようにして年報を発行する。（発行日；毎年8月1日を原則とする）
- 2 内容
  - 1) 巻頭言（会長等）
  - 2) 研究実践報告（担当；越田）

会員の自由投稿によるが、担当からの執筆呼びかけも行う。  
A4版40字×40行×4ページ以内  
投稿受付は、4月30日まで  
原稿締切は、5月31日まで  
ワード入力による電子情報で担当に提出  
詳細については、越田委員長が後日提案する
  - 3) 今年度のフォーラムの要項（担当；開催地）

例として 大会テーマ 大会主旨 日程 会場案内 記念講演要旨（講師略歴）  
分科会発表要旨 パネルディスカッション要旨（方向性） 2004屋台資料

フォーラムに参加しなかった会員には、会の会計から費用を負担して郵送する。したがって、フォーラムは、資料代を取らず「参加費」として受け付ける。
  - 4) 前年度フォーラムの記録および考察・その後の実践内容（担当；前年度開催地）

事務局便り（・総会資料 ・規約 ・会員名簿？）

執筆者からの原稿が集まり、編集ができれば、印刷所に依頼し製本をしてもらう。

、その他

- 会報は、年間1～2回は全ての会員に紙ベースの物を送付する。（特に、資料集や年報の発行号）  
フォーラムでは資料の袋詰めは行わず、この年報以外の資料がある場合は、発表者個々に配布する（屋台も同様）。  
会員以外で資料集を必要とする場合は、実費頒布とする（価格は未定）。  
融合研発足10周年を目前に、単行本を発行する。

### 4 その他

2005年度のフォーラム開催地立候補を受け付けます。また、「2006年度以降なら」という地域でも構いません。「今は、まだあまり推進されていないが・・・」という地域でも結構です。

フォーラムを機会に、融合の推進が図られたという地域もごございますので、どうぞ、奮ってご応募ください。

「フォーラムは開催できないが、勉強会やミニフォーラムならやってみたい。」という地域は、ご連絡下さい。事務局会議で検討し異論がなければ、活動経費として「10万円を限度に」補助します。